

第 21 回岐阜大学技術報告集に寄せて

岐阜大学 応用生物科学部長 杉山 誠

「継続は力」と申します。これまで 20 回にわたり、技術報告会を続けてこられた皆様に、心より敬意を表したいと思います。今年は、名古屋大学との法人統合を目前に節目となる報告会となるはずでした。第 21 回開催の準備を進めてこられた皆様には、大変残念な思いをされていることと拝察いたします。

大学の教育研究の活性化には、技術に裏打ちされた確固たる研究基盤が必須です。すなわち、日進月歩で進化する技術、そして新しい技術を支える技術職員の皆様の力なくして、大学の発展は難しいと言えます。このような背景から、法人統合を機に、全学技術センターが設立され、技術職員の位置付けも明確化されました。さらに、これまで培ってきた本学の技術力に名古屋大学の力が加わり、相乗作用による更なる技術力の向上・発展が期待されています。このためには、両大学技術職員の交流が必要であり、今後、この報告会の重要度が増すことは間違いありません。

加速する少子高齢化にあって、社会は教育機関である大学に対して非常に厳

しい目を向けています。そのなかで、この法人統合により何が起こるのか、何が産まれるのか、全国から注目されています。全ての職員が自らの使命を再確認し、その上で名大との融合、それに伴う化学反応が求められています。技術職員の皆様にあっては、20年間積み上げてきた成果のなかに使命の答えがあるはずです。共に手を携え、社会から期待され、社会に貢献する大学を目指して、邁進して参りましょう。